

## すべての経験を成長の糧として

大塚化学株式会社  
代表取締役社長

**原島 丈治氏 (高校38期)**

平成 3年(1991年)3月

平成 3年(1991年)4月

平成10年(1998年)1月

平成16年(2003年)7月

平成17年(2005年)3月

平成19年(2007年)3月

平成21年(2009年)6月

平成23年(2011年)6月

明治大学 農学部 卒業

大塚化学株式会社に入社

仙台支店に配属

同社 外国部

同社 上海事務所 所長

張家港大塚化学有限公司

董事長(兼)総経理

同社 機能材料事業部 部長

同社 海外統括部 部長

同社 代表取締役社長(現任)



### ■私の高校時代



キャンパスを倒した後で

高校時代は、剣道部に所属していました。剣道はもちろん一生懸命取り組みましたが、立高の活動にも多く参加しました。特に文化祭には深く関わりました。剣道部は何故か応援団に自動的？に入団しておりました。剣道だけでも汗臭いののに学ランを来て毎日声だしをしたのを思い出します。キャンパス創りにも精を出しました。サブチーフでしたので夏休みもほとんど休まず青梅から立川まで通い続けました。完成した時の達成感は今でも忘れません。私にとって「青春時代は？」と聞かれば間違いなく高校時代です、と答えます。それくらい自分の人間形成において大事な時期であったのではないかと考えています。

ここからトーンは落ちますが、学業は？という客観的に下層1割には入っていたのではないのでしょうか？ 2の赤座布団2枚、江頭先生から頂きました。因果関係は定かではありませんが浪人することになりました。そして翌年、明治大学の農学部に進学することになります。

### ■大塚化学入社から現在

「食べ物を通して世界で活躍したい」と農学部を選びましたので、希望に叶う会社として大塚化学を選びました。1991年4月入社ですからバブル崩壊滑り込みセーフの世代です。

大塚化学は、大塚製薬、大鵬薬品など大塚グループの会社です。その当時の大塚化学は、化学品、農薬肥料、ボンカレーなどの食品、家具、と大塚化学といいながら色々な部門がありました。私は農薬肥料部門に入社し最初の赴任地は仙台でした。暫く国内で勉強してから海外の仕事に異動できるはずでしたが、仙台支店に7年もいることになりました。それでも念願叶い大阪本社の外国部へ異動することが出来ました。但、農薬肥料部門でのポストは無く化学品の配属となってしまう人脈も知識も無い中で苦勞したことが思い出されます。その6年後、2003年大塚化学として中国に進出するとのことになり初代上海所長を拝命しました。その後、中国での現地法人社長としてプラントを立ち上げ東京に戻ってきました。機能材料事業部長2年、海外統括部長2年そして2011年6月、突然大塚化学の社長を拝命することとなりました。

### ■立高生の皆さんへ

社長になってから色々な世界をみました。正直、若くして社長になりましたので苦勞をしました。大人の世界、政治の世界は本当に怖いと体感しました。人の何をみて信頼するのか、何をよりどころとするのか？ 一時期は気が狂いそうな状態だったかと思います。しかしながら、お天道様がどこかで見ていて、天台宗の言葉で「一隅を照らす」の精神でここまで社長業を続けてきました。これから皆さんも色々な経験をし、良いことも悪いこともあろうかと思いますが、腐らず前を向いていれば必ずや助けてくれる人がいますし、自分自身が成長出来るのではないのでしょうか。